令和2年度 横瀬川ダムモニタリング委員会の審議概要について

令和2年度 横瀬川ダムモニタリング委員会を下記のとおり開催しましたので、その審議概要を公表いたします。

記

開催日　令和3年2月18日（木）
会　場　WEB 形式
事務局会場　渡川ダム統合管理事務所

〇目的

横瀬川ダム建設事業及びダム管理による環境への影響検討結果に基づく環境保全措置の具体的手法の実施、モニタリング調査等に関して事業者へ指導・助言を行うことを目的として開催しております。

〇審議概要

（１）水質

◆横瀬川ダムのような、負荷源の少ない貯水池で供用直後に貧酸素化が起こっていることは懸念事項であり、底質調査を早期に実施し、原因を究明した上で、浚渫を実施する等の対策を検討して欲しい。

◆貧酸素水塊の形成は、鉛直混合が生じるか否かによるものであり、鉛直混合が起きるような対策がとれれば低減される可能性がある。

⇒　原因解明の調査を早期に実施し、対策を検討していきたい。

（２）植物の重要種　・移植した植物　・水田表土の移植　・造成湿地

◆試験湛水による水没個体は、今後水没する可能性は低く、仮に水没しても短期間で解消され、試験湛水時のように長期間の水没がないため、再移植による個体への負荷を考慮すると、再移植は行わない方が良い。

◆水田風湿地では、水の確保が課題となるが、移植した土壌には埋土種子が残っており、この寿命も長いため、湿地環境を良好に保てば、今後新たに発芽する可能性はある。

◆キンバイザサは問題なく生育している。ヒメノボタンは１個体のみの生育であるが、多くの開花がみられたため、今後、実生からの増加に期待したい。セイタカアワダチソウ等の高茎の広葉草本が繁茂しないように、適切に植生管理を行うことが重要となる。

⇒　維持管理については、今後も適切に宿毛市と連携しながら行っていく。

（３）生態系上位性：猛禽類（オオタカを指標）

◆10 種程の猛禽類がダムの工事中も完成後も工事前と同じように生息していることは、騒音、振動、工事用車両の低速走行、夜間照明、作業員への環境教育などの環境配慮が大きな効果をあげたということで、非常に大きな意義がある。

◆猛禽類の存在は生物多様性に富んだ健全な生態系の指標とされる所以がある。クマタカやオオタカが生息する横瀬川ダムとその周辺は生物多様性に富んだ素晴らしい自然環境があることのエビデンスになると思う。

◆オオタカの採餌行動に関する記載ついては、事実に基づいた範囲で説明できる表現に留めるとよい。

◆ダム供用に伴う湛水の影響がみられるようになった段階である。サシバが遠方へ採餌といった行動がみられたが、このような事象を拾っていくことが重要である。他の種についても、同様なことが起こっていることも考えられるため、次年度もモニタリングしていく必要がある。

（４）動物の重要種：ヤイロチョウ

◆これまで行われた猛禽類とヤイロチョウのモニタリング調査は、調査時期、調査地点配置、調査方法、調査日数等、問題なく実施され、良い結果が出ていると思う。来年度調査の結果により来年度以降の調査について検討する。

（５）モニタリング調査結果の評価と対策

◆個別の影響評価だけでなく、総括的なとりまとめや評価があるとよい。次年度はそのようなとりまとめを実施して欲しい。

◆中筋川ダムと比較したとりまとめはわかりやすくよかった。今後も可能であれば行って欲しい。

（６）全般について

◆ダムやその周辺環境について愛称を付け PR していくなども考えられ、「ダムフォレストヒーリング」などの愛称が考えられる。　横瀬川ダムに限らず、全国的に展開してもらいたい。